

## 【2025年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフみなみおおさか				
○保護者評価実施期間	2025年11月20日 ~2025年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数)	0人	
○従業者評価実施期間	2026年1月15日 ~2026年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日				

### ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア・重度心身障がい児を含めたイベントの企画	医療的ケアや介助が必要な児童も一緒に利用しているため、全員が楽しめる場所や身障者トイレが完備されているかなど、事前にホームページや直連絡をして確認を行ったうえでイベント立案を行っている。	経験をさせてあげたいことも含めて、子どもたち全員が「楽しかった」と喜んでもらえるように継続してイベント企画を行っていく。また、子どもたちや保護者様からも「こんなところに行きたい」や「経験してきてほしい」などのご意見もいただきながら、イベント企画に反映させていただきます。
2	近隣に公園がある	室内の活動スペースに限りがあるため、身体を使って遊ぶときや活動時間に余裕があるときには近隣の公園に出かけて、思い切り活動してもらえるように心掛けています。	1日の活動の中で利用している子どもたちに「公園に行く？」など気持ちを確認しながら、平日でも室内と戸外療法での活動時間を確保できるように努めていきます。
3	近隣に契約している畑が近い	子どもたちに季節ごとの野菜の苗を選んでもらい、自分たちの手で育て育てるなど自然と触れ合える環境を作れるように意識しています。	イベントの企画として、自分たちで育てた野菜を使ったクッキングなど食育の一環として体験してもらえるようにイベント企画を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースと学習スペースの境界がない	活動スペースの一区画に学習机を配置して周代を行ってもらっています。しかし、学習スペースのみを配置できる間取りの広さがないため、集中したいときなどに空間を仕切ることが難しくなっている。	学習スペースを使用しているときは、その場所に活動している児童が行かないように声掛けをしたり、マットで区切るなど空間を上手く使いながら集中できる環境を提供していく。
2	地域交流の機会が少ない	ハロウィンイベントで地域のデイサービスや近隣の商店街にご協力いただき、合同企画を行うことが出来ました。しかし、多方面への送迎を行っていることもあり、1つ1つの活動時間の短さなど調整が難しい部分にあたらめて気付かされた。	合同させていただき事業所や地域の方たちと、より綿密に話を子どもたちの負担にならないように計画を決めていく。また、地域との交流の機会を設けるために保護者様にもご協力いただけるようにお声がけさせていただく。
3	室内の活動の制限	活動スペースに限りがあるため、子どもたちが行いたいボール遊びや体を使った遊びの際にスペースが少なくなってしまう。	体を使って遊びたい際には、室内をマットを使用して区切るなど工夫を行っている。しかし、子どもたちが満足できるだけのスペースの確保が難しいため、近隣の公園を活用するなどして全員が納得できる工夫を行っていく。